

令和3（2021）年度「卒業生採用に関するアンケート調査」集計結果

学生生活支援委員会（就職支援WG）

I. 調査時期，対象施設，回収結果

調査時期：令和4（2022）年1月

対象施設：令和2（2020）年度卒業生就職先

	対象施設		回収数		回収率	
	施設数	件数	施設数	件数	施設ベース	件ベース
看護科	49	75	25	49	51%	65%
医療介護福祉科	9		8		89%	

※看護科では1施設あたり複数部署に送る場合があるため，対象施設数と件数で表示している。

II. アンケート結果および分析

1 施設基本事項（得られた回答数を示す）

1) 地方・都府県別

地方	都府県	看護科		医療介護福祉科	
		地方別	都府県別	地方別	都府県別
近畿地方	京都府	4	1		
	兵庫県		3		
中国地方	岡山県	42	35	7	5
	広島県		6		2
	山口県		1		
四国地方	香川県	2	1	1	1
	愛媛県		1		
九州地方	鹿児島県	1	1		

2) 種別

施設の種別	看護科	医療介護福祉科
500床以上の病院	31	2
200～500未満の病院	11	1
200床未満の病院	6	0
特別養護老人ホーム	0	2
介護老人保健施設	0	2
総合福祉施設	0	1
未回答	1	0

3) 病院・施設等の職員数

従業員数（人）	看護科	医療介護福祉科
3000以上	1	1
2000～2999	22	1
1500～1999	1	0
1000～1499	6	0
500～999	9	1
300～499	5	1
200～299	1	0
100～199	1	2
100未満	0	1
未回答	3	1

4) 病院・施設等の看護師数または介護福祉士数

看護師数 (人)	看護科	介護福祉士数 (人)	医療介護福祉科
1000 以上	1	100～199	1
900～999	22	50 ～ 99	1
800～899	1	30 ～ 49	1
700～799	0	10 ～ 29	3
600～699	0	10 未満	1
500～599	6	未回答	1
400～499	3		
300～399	1		
200～299	6		
100～199	5		
100 未満	1		
未回答	3		

2 調査項目

A 採用活動に対する新型コロナウイルス感染拡大の影響

1) 新型コロナウイルス感染拡大の採用活動への影響

項目	看護科		医療介護福祉科	
	回答数	割合	回答数	割合
1 大いに影響した	4	10%	2	25%
2 ある程度影響した	23	56%	3	38%
3 どちらともいえない	9	22%	0	0%
4 あまり影響はなかった	4	10%	3	38%
5 影響はなかった	1	2%	0	0%

未回答：看護科 8

2) 1) で 1～4 を選んだ場合の影響の内容

項目	看護科		医療介護福祉科	
	回答数	割合	回答数	割合
a. 求人数の減少	1	3%	2	33%
b. 出身地の変化	8	22%	1	17%
c. 募集回数の減少	3	8%	0	0%
d. 説明会やインターンシップの中止または機会の減少	30	81%	4	67%
e. 情報の周知不足	7	19%	2	33%
f. 対面を伴う職場訪問や面談機会の減少	17	46%	4	67%
g. 試験日程の変更	1	3%	0	0%
h. 選考方法の変更	6	16%	2	33%
i. 学生の準備不足・理解不足	4	11%	0	0%
j. 大学の支援不足	1	3%	0	0%
k. 採用スケジュールの遅れ	1	3%	1	17%
l. 学生とのコミュニケーション不足	6	16%	0	0%
m. 採用活動のオンライン化での課題	5	14%	1	17%

未回答：看護科 該当する 40 件のうち 3, 医療介護福祉科 該当する 8 件のうち 2

その他の影響 (自由記述)

看護科：県外からの入職は移動後 2 週間経ってからという規定があった

医療介護福祉科：インターンシップを中止したことによる現場紹介や業務体験の機会の減少

【1)2)の分析】

新型コロナウイルス感染症の拡大による採用活動への影響について、看護科では 90% 近くの病院、医療介護福祉科では 60% 以上の病院・施設が少なからず影響を受けている。とりわけ、「説明会やインターンシップの中止または機会の減少」と「対面を伴う職場訪問や面談機会の減少」を挙げた病院・施設の数が多く、「求人数」や「選考方法」などの募集環境にも変更を余儀なくされていた。

3) 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた入職者に対する例年とは異なる配慮や研修等の実施の有無

回答	看護科		医療介護福祉科	
	回答数	割合	回答数	割合
1. はい	34	79%	3	43%
2. いいえ	9	21%	4	57%

未回答：看護科 6, 医療介護福祉科 1

4) 「はい」と答えた場合の配慮や研修の実施内容（自由記述）

看護科

- ・eラーニング導入, 集合研修を数回に分けて実施
- ・昨年度と同様にe-ラーニングを多く用いた研修にした
- ・OJTでの確認を強化, チェックリストの使用。集合研修の減少に伴い, 現場でのオリエンテーションの実施
- ・患者との対話や情報収集についてのシミュレーション研修を増加した。部署でのOJT強化に取り組んだ
- ・オンライン研修や人数制限。基礎看護技術の実践や研修をOJTを通して行っているが時間数の増加
- ・対面での実習を行っていないことを確認し, OJTなどの実施
- ・シミュレーション室の充実, 集合教育, 部署内教育の充実
- ・教育支援にむけて学生時代の実習の状況や課題, 入職してからの課題と対策についてスタッフに周知した(5)
- ・現場での実技練習, 報告, 相談のタイミングの遅れなど, 指導者へゆっくり待つように指導した(周知伝達した)。メンタルヘルスについての研修を取り入れた
- ・感染対策の研修時間を増やした。実習で経験できたこと, できなかったことを把握して研修を行った
- ・実習時間が少ないということをふまえて, シェドウイングの時間を長くとったり, 一緒に看護技術を行う時間を長くとったりした
- ・ストレスマネジメントに関する研修に臨床心理士が行う研修を取り入れた
- ・横とのつながりが意識できるように少人数ずつだが集合研修でグループワークを多く取り入れた
- ・技術面に関する時間を多めにつくった
- ・研修会で集合する人数の制限により, 内容の変更や回数を増やした(3)
- ・感染対策のため, 新入職員研修の日程を縮小し, 内容を一部変更して対応した
- ・ローテーション研修の期間を短くした
- ・支援期間の延長
- ・自部署のみで, 実習指導者(担当)が主で他部署とは合同で行わない。できるときは感染対策を行い合同研修
- ・集合教育が少なく同期との関わりが少ない為, フォローアップ研修の頻度を増やした
- ・集合研修では感染対策を十分にを行い健康観察を加えた。実習に行けていない為, 1年間ペアリング体制とし, リアルティショック対策を行ったり, 副看護師長会も新人教育委員会とコラボして教育にあたっている
- ・少人数での研修で2回開催, 生活指導や面接を増やした
- ・積極的な技術習得がないため, 実施指導者が繰り返し直接指導を行った
- ・全科を周るようなジョブがあった。(2カ月で全科にまわり, その後希望の部署をきめる) 新人研修
- ・臨床実習制限を受ける中で卒業した入職者という認識のもと, 個々で配慮はしていたと思うが, 私の部署への配置後に特別実施したイベントはない
- ・病院全体で新人歓迎会などが実施できなかったため, 看護部だけではなく新卒新人全員を対象に, 院長, 統括部長, 看護部長で昼休みを活用した院内での歓迎会を実施した
- ・毎年, 同期で集まる機会を重視していたがコロナ禍により同期会ができず, 新入生歓迎会もできていない。代わりに病棟単位で記念品を贈り, 感染対策をした上でのリフレッシュ研修を行った
- ・流行地域からの受験者は別会場で選考

医療介護福祉科

- ・学内演習が中心であったと聞き, 患者とのコミュニケーションの困難感に配慮した振り返りや, プリセプター同行期間の延長を行った
- ・新職員に対する研修や採用説明会(入職にあたっての)をオンラインで実施した
- ・法人内研修の縮小
- ・大きくは変わらないが, 感染に関する研修の強化, メンタル面のサポートに気をつけた

5) その他, 新型コロナウイルス感染拡大のために採用活動において生じた問題点やご要望 (自由記述)

看護科

- ・院内見学会ができず, 実習校以外の応募者・就職者は病院のイメージがつかみにくかったと思う(3)
- ・インターンシップ中止
- ・オンラインでの見学対応に慣れず, 内容に不備があった会もあった。動画などの内容を充実させたい
- ・コミュニケーション能力が育ちにくい状況のためか, 声かけなどが弱い印象がある
- ・実技の習得機会が少ない事で独り立ちが遅れており, 受動的態度が散見される
- ・学校訪問ができていない。業者の就職説明会にはオンラインで参加しているが, 学校単位でのそのような会があれば参加させていただきたい
- ・今年度においては大きくはなかったが, 次年度の採用活動には問題が生じている。ズームによる面接では人間性などを感じ取ることが難しいため, 学校からの推薦文などあったら良いかも知れない
- ・対面することなく人物像が分からないまま採用試験となった。採用試験までに対面で会えるとよい
- ・特になかった。例年に比べ, 県外に行く人が減ったせいか応募者が多かった

医療介護福祉科

- ・対面での説明や面接が行えなかったため, お互いの気持ちがわかりにくかった
- ・学校訪問の機会が減少した(制限があった)

【3)4)5)の分析】

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた対象年度の入職者に対する配慮や研修等について, 看護科では79%の病院, 医療介護福祉科では43%の病院・施設が実施していた。具体的な配慮の内容としては, 人数を制限した研修やe-ラーニングを活用した研修, 実習期間が短かったことを考慮したOJTの強化, 実習期間の減少という情報を指導者やスタッフが共有, 精神的なケアへの配慮などが行われていた。このことより, 病院・施設側のフォローアップの手厚さがうかがえる。また, 病院・施設見学やインターンシップなどの減少により, 専門職への適正も含め, 学生にとっては希望する就職先が自分に合っているかどうかを検討することが難しくなっていることがうかがえる。

B 採用について

1) 組織で職務遂行上、重視する能力

それぞれの項目について、5段階（5：重視している，4：やや重視している，3：どちらともいえない，2：あまり重視していない，1：重視していない）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した

	項 目	看護科	医療介護福祉科
①	主体性	4.4	3.4
②	他人に働きかける力	4.0	4.1
③	実行力	4.0	4.3
④	課題発見力	4.0	4.0
⑤	計画力	4.0	4.0
⑥	創造力	3.9	3.9
⑦	発信力	3.6	3.7
⑧	傾聴力	4.3	4.7
⑨	柔軟性	4.4	4.4
⑩	状況把握力	4.4	4.3
⑪	規律性	4.4	4.4
⑫	ストレスコントロール力	4.4	4.3

未回答：看護科 6

その他重視している事項（自由記述）

看護科：協調性，社会人としての最低限の礼儀，笑顔・あいさつ・思いやり，組織コミットメント，理解力

【分析】

採用側が組織で職務遂行上、重視する能力として、両学科に共通して高かったのは「柔軟性」「状況把握力」「規律性」「ストレスコントロール力」であり、これに加えて、看護科では「主体性」、医療介護福祉科では「傾聴力」が重視されていた。採用側は、社会人基礎力のそれぞれの要素をバランスよく求めているが、特に、チームで働く力を有し、ストレス耐性のある人物を望んでいることがうかがえる。

2) 採用時に重視する能力

それぞれの項目について、5段階（5：重視している，4：やや重視している，3：どちらともいえない，2：あまり重視していない，1：重視していない）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した

	項 目	看護科	医療介護福祉科
①	基礎学力	4.2	4.0
②	専門知識・技術	3.7	3.3
③	職務遂行能力(意欲, 段取り力, 実行力)	4.3	4.2
④	倫理観	4.5	4.8
⑤	社会性(公共心, 誠実性, 責任感)	4.8	4.8
⑥	コミュニケーション能力	4.8	4.5
⑦	対人関係・仕事の協調性	4.6	4.7
⑧	基本的マナー	4.6	4.5
⑨	課題解決能力	4.0	3.8

未回答：看護科 6，医療介護福祉科 6

その他重視している事項（自由記述）

看護科：自身の看護観，患者に対する配慮，レジリエンス

【分析】

両学科とも、「倫理観」「社会性」「コミュニケーション能力」「対人関係・仕事の協調性」「基本的マナー」が4.3～4.7と高かった。「基礎学力」「専門知識・技術」「課題解決能力」を有していること以上に、倫理観を持ってマナーを守り、周囲と十分なコミュニケーションをとりながら協調して職務を遂行する人材が望まれているものと推察され、「質問1）組織で職務遂行上、重視する能力」の回答と重なっていた。

3) 面接時に注意してみる態度

当てはまるものを全て選ぶ質問。両学科とも、学科ごとの総回答数（回収数から未回答数を引いたもの）に対する%で示した

	項 目	看護科	医療介護福祉科
a	入退出時の挨拶	61%	83%

b	服装・身なり・髪型	80%	100%
c	顔の表情	83%	83%
d	話し方・言葉遣い	87%	100%
e	声の大きさやトーン	52%	67%
f	話を聞くとときの姿勢	83%	83%
g	話しているときの姿勢	70%	67%
h	目線の方向や動き	67%	100%

未回答：看護科 10, 医療介護福祉科 1

その他重視している事項（自由記述）

看護科：面接以外の来院時の所作，質問に対して答えを丸暗記して話していないか，話の内容，表現力

医療介護福祉科：誠実な受け答え，練習した答えでなく自分の考えを持っているか，質問を理解し返答できるか

【分析】

両学科とも，80%以上の施設において「服装・身なり・髪型」「話し方・言葉遣い」が挙げられた。同時に，「顔の表情」「話を聞くとときの姿勢」を挙げる施設も多かった。面接においては，身だしなみや表情・姿勢，相手の話を聞く態度，話し方など，社会人としての基本を身につけておくことが重要になる。

C 採用した本学の卒業生について

1) 本学卒業生の印象

それぞれの項目について，5段階（5：優れている，4：やや優れている，3：普通，2：やや劣る，1：劣る）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した

	項 目	看護科	医療介護福祉科
①	基礎学力	3.2	3.6
②	専門知識・技術	3.1	3.4
③	職務遂行能力（意欲，段取り力，実行力）	3.2	3.3
④	倫理観	3.3	3.6
⑤	社会性（公共心，誠実性，責任感）	3.4	3.6
⑥	コミュニケーション能力	3.4	3.4
⑦	対人関係・仕事の協調性	3.4	3.6
⑧	基本的マナー	3.4	3.6
⑨	課題解決能力	3.0	3.1
⑩	注意や指導を受けた後の対応力	3.3	3.4

未回答：看護科 5

その他の印象（自由記述；カッコ内は件数，件数の記入がないものは1件）

看護科：

- ・個人差があるので答えにくい(4)
- ・患者への対応，片付け，電話対応などが適切にできない。経験したことを生かすことができない(3)
- ・わからないことはしっかり助言を求めるなど，積極性があり職場に順応している(2)
- ・まじめで素直，明るい
- ・態度や印象が良く，責任感を持って行動している
- ・救急病棟配属のため学力知識が一般病棟よりは必要なため評価は低くなったが，努力を重ねている

医療介護福祉科：

- ・介護福祉士としてどう成長したいかという自分の意志を感じる
- ・文章作成能力が優れており，自分の考えをまとめしっかり記入できている

2) 本学看護科卒業生が身につけている能力

それぞれの項目について，5段階（5：優れている，4：やや優れている，3：普通，2：やや劣る，1：劣る）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した

項目	平均
1 看護師に必要な知識とともに，専門職者としての基本姿勢と態度を備えている。	3.2
2 根拠に基づいた看護を提供できる実践能力を修得している。	3.0
3 看護専門職者としての誇りを持ち，研修・研さんを行う意欲と能力を身につけている。	3.2

未回答 3

【1)2)の分析】

看護科では、1)の10項目、2)の3項目について、わずかではあるが昨年度に比して11項目の評価が上昇し、すべての項目の評価が3以上になった。一方、個人差が大きく、ミスを繰り返してしまう卒業生がいることも指摘された。医療介護福祉科では、昨年度に比べて評価が全体的に下がったものの、「基礎学力」「倫理観」「対人関係・仕事の協調性」「基本的マナー」は3.6、それ以外も3.1以上の評価であった。両学科とも、評価が低かった自分で考えて行動できる実践能力や現場に即した課題解決能力を身につけさせる必要がある。

3) 本学卒業生の傾向

①他校出身者と比較して優れている部分（自由記述；カッコ内は件数，件数の記入がないものは1件）

看護科：

評価できない(5)，あまり大差がない(3)，素直さ(4)，基礎知識・技術(3)，コミュニケーション能力(3)，業務を丁寧に行い報連相ができる(3)，院内の雰囲気や業務の流れを知っている(3)，記録・レポート作成など他者に分かりやすく記載しリフレクションができる(2)，基本的なマナー・態度(3)，発言力(2)

社会的常識，積極性，意欲，仲間意識，まじめで着実に実践力を上げている，他人と比べることなくストレスマネジメントができる，メンタル面，患者との関係性の構築が早い，他人の指導を活かすことができる

医療介護福祉科 (5)：

評価できない，基礎学力，責任感，利用者への対応や業務など根拠まで質問できる，環境に慣れるのが早い

②他校出身者と比較して劣っている部分（自由記述；カッコ内は件数，件数の記入がないものは1件）

看護科 (25)：

評価できない(5)，あまり大差がない(5)，アセスメント能力(2)，基礎学力(2)，対象者に合わせた言葉遣い・敬語の使用(2)，基本的マナー，コミュニケーション能力，問題解決能力，積極性，意欲が伝わってこない，積極的な自己学習，シミュレーション研修で考えや根拠が少し言えなかった，精神的にも体力的にも劣っている，劣っているとは思わないが，控え目でおとなしく積極性が少々乏しい

医療介護福祉科 (2)：

利用者様への声かけはできているが日常的な会話などが少ない，積極性（個人の問題が大きいかもしれない）

③過去の卒業生と比較して変わったと感じる部分（自由記述；カッコ内は件数，件数の記入がないものは1件）

看護科 (17)：

評価できない(4)，あまり大差がない，自主性の高い看護師が増えている，意欲のなさ，自己完結よりも他者依存傾向が強く責任ある業務遂行意欲に欠ける，あまり表情に出ない，メンタル不調をきたしやすい・打たれ弱い・レジリエンス力が低い，学力・理解力の低下，基本的なマナー・接遇ができない，実習不足，社会性・コミュニケーション能力の低下，積極性が少ない（自分から学ぼうとする姿勢が乏しい，言われたことだけという印象がある），注意を受けること（指導されること）に慣れていない，他者に対して働きかける力が低下している

医療介護福祉科 (2)：

全体的にレベルが低下していて発想力も意欲もあまり感じられず，残念である
利用者様との距離感が過去の卒業生はもう少し親しみのあるものであった

4) 本学卒業生を採用したことの総合的満足度

5段階（5：満足，4：やや満足，3：どちらとも言えない，2：やや不満，1：不満）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した。

	看護科	医療介護福祉科
本学卒業生を採用したことに対する総合的満足度	4.0	4.4

5) 採用した学生について気づいた点（自由記述；カッコ内は件数，件数の記入がないものは1件）

看護科 (21)：

- ・スタッフや患者と適切に接することができている(3)
- ・何事にも前向きに取り組む姿勢が見られ，とても良い(3)
- ・地元から離れていたり，声をかけづらい雰囲気であったり，困ったことや分からないことを素直に伝えられなかったりすることから，ストレス発散や業務への影響が気になる(3)
- ・よく頑張っている(2)

- ・少しずつではあるが成長している(2)
- ・着実に成長している人と、なかなか成長できない人がいる(2)
- ・専門職としての態度、技術が教育されている
- ・環境に慣れてきて、表情が豊かになってきたので安心している
- ・指導を素直に聞けるため、柔軟な対応ができるようになると思う
- ・救急ではスタッフの指導も厳しくなりがちだが、自己研鑽に努め謙虚な姿勢で取り組んでいる
- ・退職に至ってしまった卒業生もいるが、大半のスタッフがお互いに支え合いながら1年目を乗り切ろうとしている。多くの卒業生を採用させていただいて良かったと思っている
- ・患者に対して常識に欠ける言葉遣いをするなど、「場」を考えた判断・行動ができない
- ・言葉遣い以外のマナーや社会性が低下しており、相手の表情や意図することが理解できにくく、それによる違和感が感じ取れない。先輩が話している内容（悪い内容）を自分のことととらえる傾向がある
- ・成長過程または家庭環境において何か問題を抱えているように思う。それがベースとなり、やや歪んだ感覚を持っているため患者の立場になって考えることが難しいように思う。集中力に欠け、安全確認行動が乏しい
- ・精神疾患の既往があることを面接では言われてなく、分かってからはかなり配慮している。初めてのことで色々勉強になっている

医療介護福祉科 (3) :

- ・学んできたことをベースに、現場で感じた疑問や自身の課題について、先輩にきちんと指示を仰ぎ解決することができている
- ・何度か個別指導も行い少し改善したように感じていたが、慣れもでてきたのか、仕事の手を抜いたり職員の不満を言うようになり、非常に残念である
- ・リーダーシップをとって業務ができればなお良いと思う

【3)4)5)の分析】

本学の卒業生を採用したことに対する総合的満足度は、看護科 4.0, 医療介護福祉科 4.4 で、両学科とも比較的高かった。卒業生の傾向の指摘には、本学の指導に対する良い評価につながるものが多かったが、厳しい指摘もあった。また、看護科の自由記述回答にあるように、「コミュニケーション能力」など同じ内容が「優れている」と「劣っている」の両方に書かれている場合があり、個人差がかなりあることがわかる。このため、一部の卒業生の行動が全体的な評価を下げているものと考えられる。また、今年度の特徴として、両学科とも意欲の低い卒業生がいることが指摘された。また、看護科ではアセスメント力や問題解決能力、メンタル面の問題が指摘された。両学科で高評価をいただいた素直さや明るさ、仕事の丁寧さや頑張る姿勢、環境への順応性といった良い資質を生かし、医療福祉の現場にふさわしい人材に育てていくことが今後の課題である。

6) 本学学生に充実を求める能力（上位3項目の選択）

学科ごとの総回答数（回収数から未回答数を引いたもの）に対する%で示した。

	項目	看護科	医療介護福祉科
a	基本的マナー	70%	63%
b	コミュニケーション能力	77%	50%
c	対人関係調整力	68%	88%
d	幅広い教養と基礎学力	17%	38%
e	深い専門的知識・技能	6%	0%
f	文章読解・表現能力	15%	0%
g	リーダーシップ	4%	13%
h	課題解決能力	21%	0%
i	プレゼンテーション能力	6%	13%
j	マネジメント能力	4%	0%
k	コンピュータ活用能力	0%	0%
l	指導能力	0%	0%
m	外国語の能力	2%	0%
n	国際的視野	0%	0%

未回答：看護科 2

その他充実が必要な事柄（自由記述；カッコ内は件数，件数の記入がないものは1件）

看護科 (5) :

- ・コロナ禍において十分な臨床実習が行えていないと伺ったが，新人看護師の不安や心配を少しでも取り除けるよう部署・病院全体でフォローさせていただく。不安な面や心配な面があったらお知らせ願いたい
- ・貴学というより全ての学生に求めることである
- ・急性期病院であれば，それに合う学生に勧めるなど進路指導をしっかりしてほしい ・柔軟性 ・倫理感

医療介護福祉科 (1) :

- ・自己のキャリア開発についてイメージし発信する力。長期的に専門職として自己成長するイメージの機会

7) 本学に対する意見，希望（自由記述；カッコ内は件数，件数の記入がないものは1件）

看護科 (14) :

- ・患者さんのためにということ念頭に，自分を信じて行動できる人，困ったときに我慢したり自分の評価を気にしたりせず相談できる人を育成してほしい(5)。病棟としても，コミュニケーションがとりやすい場を作っていけるように努力していきたい
- ・とても良い人材である(2)
- ・当院への就職の案内等，よろしくお願ひしたい(2)
- ・新入職員が着実にステップアップしていけるようにサポートしていきたい
- ・「育ててもらえる」ではなく「育っていける」人材を求める
- ・どこの出身であるかより個人差の大きさを感じる。
- ・職場が病院であることを十分に認識し，言動には留意してほしい。
- ・急性期病院を希望しても勤務が難しい学生がいる。学生に見合った進路指導をするようお願いする。また，卒業後についてもしっかりフォローアップをお願いする。就職してもすぐに辞めたり病気になる人がいるため，受け入れ病院としてはとても困る
- ・多重責務を負う中で優先する倫理について考える力，様々な生活背景や価値観を持つ患者をとらえる力，情報を整理する力が必要。臨床と学校とが連携した教育ができるようコミュニケーションをとりたい
- ・教員のアップデート，今までの古いしきたりや常識の見直しをお願いしたい。学生が困惑している
- ・就職ガイダンス等があれば参加させていただきたい

医療介護福祉科 (4) :

- ・今後ともよろしくお願ひしたい
- ・介護福祉士としての入職後の継続教育が不足しているため，研修機会などあればお知らせいただきたい
- ・実習生の受け入れも含め，意欲のある学生をお願いしたい
- ・リーダーシップや指導能力は自ずと身につけてくる。まずは基本に忠実に業務できればよい

医療会議福祉科（欄外）

- ・病院の現場に介護福祉士が入職することは少ないが，当院の回りハに卒業生の方に多く入っていただいている。免許の範囲内で自律した活動をしてほしい

【(6)7)の分析】

本学の学生に充実を求める能力として3項目を選んでいただいた。その結果，両学科とも「基本的マナー」「コミュニケーション能力」「対人関係調整力」が他の項目を大きく上回った。次いで，大幅に減るものの，看護科では「課題解決力」，医療介護福祉科では「幅広い教養と基礎学力」を充実させることが求められている。採用先の病院や施設は，コロナ禍により遠隔授業が中心となる時期が繰り返されることや，学内外の実習が十分に行えなくなる可能性があることを考慮したうえで，対人援助職者としての基本的な能力を重視されている傾向がうかがえる。この3本柱を充実させることができれば，前に踏み出す力，考え抜く力，チームで働く力の向上にもつながるのではないかと思われる。また，多様化する看護師と介護福祉士の業務に対応できるよう，本学の教育体制と学生支援を充実させるとともに，個々の学生に対しても，さまざまな事態に柔軟に対応できるようセルフコントロール力を身につけさせることが求められる。

今後の課題

1 学科の課題と対策

1) 看護科

近年の新型コロナウイルス感染の拡大する中での就職活動では、インターンシップや病院見学会の中止により、希望する病院のことを知らないまま就職する学生が少なくない。その影響で就職後の職場適応が困難になり、新人看護師の早期離職者の増加が問題になっている。看護科（看護学科）では、例年6割以上の学生が500床以上の大病院を希望する傾向にあるが、今回の調査では、採用側からは自分に合った病院選びの進路指導を要望する意見があった。学生の状況をよく知る担任を中心として、学生の特性にマッチした病院選択ができるような支援を行う必要がある。

病院側が採用にあたり最も重視している項目は、「コミュニケーション能力」であったが、臨地実習時間数の減少とともに、コミュニケーション力の低下が指摘されている。アンケートの自由記述では「他校出身者と比べて優れていると感じる部分」「他校出身者と比べて劣っていると感じる部分」の両方に「コミュニケーション力」が挙がっていた。個人差が大きいことが推察されるが、対人関係職として基本的な要素であるため、臨地実習での指導はもとより、学内の演習等でもグループワークやディスカッションなど、コミュニケーション能力を上げるための教育方法を工夫していく必要がある。

また、採用側では臨地実習経験が少ないことを考慮し、研修内容の充実を図るなど新人教育を強化する取り組みが実施されていた。ただし、受け手側の積極性や意欲が低いとの指摘もあり、主体性をもって学び続ける姿勢を身につける支援も行っていく必要がある。

2) 医療介護福祉科

今回のアンケート調査では、病院3か所、施設5か所の計8か所の病院・施設から回答があった。

そのうち、「新型コロナウイルス感染拡大の影響が採用活動の際に多いにあった」、あるいは「ある程度影響があった」と答えている病院・施設は5件であった。入職後、新型コロナウイルス感染に対する例年以上の特別な配慮や研修を行っている施設は3件であった。その内容は、新職員への研修や説明会をオンライン開催したこと、新型コロナウイルス感染拡大の影響で学内実習が多かった本学の実情を踏まえた入職後の研修の強化やプリセプター同行期間の延長、感染に対する研修の強化、メンタル面のサポートなどで、現状を理解した配慮が行われていた。今後、就職後のフォロー体制を強化し、新型コロナウイルス感染の影響に配慮しながら施設側と連携した卒後教育を行うことが必要である。

本学科の卒業生を採用したことへの満足度は4.4であり、基礎学力が優れている点や責任感がある点、理由まで質問が出来る点や環境に慣れるのが早い点について優れているとの意見があった。その反面、他校と比較した場合、積極性のなさ、発想力や意欲低下などの指摘があった。このことから、本学科における机上と実習の学びを統合させ、実習前のオリエンテーションや実習後の振り返りを実施し、各講義でも担当者間で連携を図り、倫理観や社会人基礎力を涵養していく必要がある。さらに、個々の学生に合わせた丁寧な指導を行っていく必要がある。また、施設側からの要望にもあったように、入職後の継続教育についてもお互いに情報を共有し、連携を密に図る必要がある。

今後も医療的な知識の習得を強化し、当学科の強みが就職後に発揮できる学生を育成する必要がある。

2 大学としての課題と対策

令和2年度の卒業生を採用していただいた施設にアンケートを実施した。その結果、総合的満足度（1～5の5段階評価）は看護科4.0、医療介護福祉科4.4と、おおむね満足しているという評価であった。大学として以下の5点を課題と考え、大学と学科で連携を図りながら改善に努めたい。

1. 新型コロナウイルス感染の拡大するなか、病院・施設見学、インターシップなどの機会が減少した影響により、専門職への適正も含め、学生が自分に合う就職先を選ぶことが難しくなっている。学生の希望を考慮しつつ、できるだけミスマッチを避ける支援を行っていく必要がある。

2. 「採用時に重視する能力」と「本学卒業生の印象」については、同じ項目で評価していただくことで、採用側の期待と本学卒業生の実際の能力との食い違いについて検討することができる。看護科では、昨年度に比べてこの食い違いが若干減り、コミュニケーション能力にも改善が見られたものの、それでも食い違いが最も大きいのが「コミュニケーション能力」であった。採用側が意図するコミュニケーション能力と学生が身につけていると考えているそれにも食い違いがあることも推察される。医療介護福祉科でも、「コミュニケーション能力」の食い違いが最も大きかった。次いで、両学科とも「社会性」と「対人関係・仕事の協調性」の食い違いも大きかったことから、患者と利用者の尊厳を第一に考える倫理観と良識ある医療福祉人を育てられるよう指導を行っていく必要がある。

3. 「採用時に重視する能力」と「本学学生に充実を求める能力」を比較すると、これまでの調査に引き続き、両学科とも「基本的マナー」「コミュニケーション能力」「対人関係調整力」などが高い値となり、これらの能力を十分に持つ学生を育成する必要があることが示された。「本学卒業生の印象」、他校出身者と比較した「本学卒業生の傾向」、「採用した学生について気づいた点」でも、職務遂行上必要な医療福祉人としての基本的な能力の低下を指摘する意見があった。対人援助職者として当然身につけておくべき能力が、前回調査と同様、就職先の期待よりもやや低かったことが伺える。このことから、これまで以上に、全学的な就職支援講座の内容を充実させるとともに、入学時のオリエンテーション、講義や実習、H.R.、個別指導の中での取り組みが大切になる。入学時から将来の職場が病院や施設であるということを認識させ、学びと社会性に対する動機づけを図るとともに、自身の看護観や介護観を考えさせていく必要がある。

4. 「職務遂行上の能力」として、両学科に共通して、「主体性」、「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」「規律性」「ストレスコントロール力」といった「チームで働く力」が重視されていた。自由記述の中には、対人援助職として感受性の低さが指摘されていた。組織の一員として、周囲の意見を聴き、規律を守り、状況を把握しながら主体的に医療福祉に取り組める能力を学生時代から育てられるよう、指導に取り組みたい。

5. 「面接時に注意してみる態度」として、両学科に共通して「服装・身なり・髪型」「話し方・言葉遣い」「話を聞くときの姿勢」「話しているときの姿勢」「顔の表情」が重視されていた。就職支援講座を通じて就職活動の基本的なマナーを身につけさせるとともに、学んだことを個々の学生が自信を持って実践できるよう、学科での個別指導を継続して行っていきたい。